

## 看護大学生入学時PBL (Problem-based learning) 導入アイスブレイキング実施後の学生の反応—

新潟医療福祉大学看護学科・本間千代子, 長谷川隆雄,  
阿部明美, 石塚敏子, 志田久美子

## 【背景】

大学入学時の新入生は期待や緊張, 不安などを持ちながら学生生活や学習活動に移行して行く。特にグループ学習を中心とした能動的なPBL学習方式は今までの学習形態とは異なり一人一人の発言や他者の傾聴などをスキルとする学習方式である。学生はすぐにグループにとけこんで学習を進めることは困難である。そこで入学時看護大学生を対象に, PBL学習方式導入としてグループ行動作業を中心としたアイスブレイキングプログラムを作成し実施した。社会人研修の冒頭にアイスブレイキングを実施し研修をスタートする研修プログラムは良く行われるが, 学生PBL学習方式の導入アイスブレイキングを実施した研究は見あたらない。本研究はグループ学習継続への示唆を得るため実施後の学生の反応を調査したので報告する。

## 【方法】

1) 対象: 看護学科1年生N=85; 2) プログラム: 2010年4月6日全体オリエンテーション時「PBL学習法とは」講義40分, 実施日時: 2010年4月9日1限90分 体育館 PBLグループでのストレッチ体操, じゃんけん自己紹介, 同じ人さがし, 2限90分PBLグループによる60分間の情報伝達作業による目的達成課題の実施(ゆかいなチャッターランド); 3) 調査: 2010年4月13日, 集合調査法, 質問紙は実施内容8項目を問う任意尺度の4段階評定尺度(rating scale)1点から4点の4件法で効果を測定; 4) 分析: 得点の記述統計と分散, 自由記述内容の分析; 5) 倫理的配慮: 調査は成績とは無関係, 無記名, プライバシーの秘守, 教員が研究し学習方法を考えていくためのものということを説明し任意であることを述べ質問紙の冒頭にもそのことを記述した。

## 【結果】

質問紙の信頼性分析はCronbachのアルファ.846であった。

表1. 実施後の各項目の得点平均

	得点平均
1. じゃんけん自己紹介	3.0±.76
2. 同じ人さがし	3.2±.66
3. 体育館での活動うちとけた	3.0±.69
4. 作業を通して自分に気がついた	3.2±.63
5. メンバーの発言で動くようにした	3.2±.60
6. しだいに楽しく活発になった	3.2±.78
7. グループ学習の仕方がわかった気がする	3.0±.79
8. 経過と共にグループは楽しく開放的になった	3.2±.84

表2. 実施後各項目の関係

	F
1. じゃんけん自己紹介	4.39 ***
2. 同じ人さがし	5.95 ***
3. 体育館での活動うちとけた	3.68 ***
4. 作業を通して自分に気がついた	7.29 ***
5. メンバーの発言で動くようにした	5.77 ***
6. しだいに楽しく活発になった	8.18 ***
7. グループの学習の仕方が解った気がする	6.57 ***
8. 経過と共にグループは楽しく解放的になった	8.40 ***

\*\*\*p<.001

表3. 自由記述

プラスの反応	マイナスの反応
楽しかった 18 (34%)	緊張 2 (4%)
自分の意見を言う 4 (8%)	うち解けられない 3 (7%)
その他各1項目ずつ 17	その他各1項目ずつ 9
39項目	14項目

## 【考察】

看護大学生入学時のPBL導入として2コマ180分のプログラムを作成しアイスブレイキングを実施した。1コマは体育館にてPBLグループごとに身体を動かし, じゃんけん・自己紹介, 同じ人さがし, など実施した結果は表1より得点平均が1. じゃんけん・自己紹介, 3.0±.76, 同じ人さがし 3.2±.66, 体育館での活動うちとけた 3.0±.69 と学生の反応は得点平均いずれも3以上で身体を動かしながらの交流は良好な活動だったことが伺える。2限に60分実施した情報伝達作業による目的達成課題でも4. 作業を通して自分に気がついた 3.2±.63, 5. メンバーの発言で動くようにした 3.2±.60, 6. しだいに楽しく活発になった 3.2±.78, 7. グループ学習の仕方が解った気がする 3.0±.79, 8. 経過と共にグループは楽しく開放的になった 3.2±.84, と2限でも良好な作業活動だったことが伺える。表2より分散分析で見ると4. 作業を通して自分に気がついた F=7.29\*\*\*, 6. しだいに楽しく活発になった F=8.18\*\*\*, 8. 経過と共にグループは楽しく開放的になった F=8.40\*\*\*とグループ作業を通じたグループダイナミクスと関係したものが関係していた。表3の自由記述の中では「楽しかった」と書いている人が18人全項目の34%と最も多い項目数であったことから全体の運営は楽しかったと考えられる。

## 【結論】

看護大学生の入学時, PBL導入プログラムのアイスブレイキングを実施した学生の反応から解ったことは, グループ作業や活動を通してグループダイナミクスに関係する項目が強く関係を示していることが明らかになった。入学時のアイスブレイキングはPBL学習方式の導入として有用な継続学習であることが示唆された。

## 【文献】

1) 日本GWT協会監修, 和田芳治他編, GWTのすすめ, 遊戯社 2003